



2021年5月13日

各位

会社名 古河機械金属株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮川尚久
(コード番号 5715 東証1部)
問合せ先責任者 上級執行役員 経営戦略特命部長
宮崎 治
(電話番号 03-3212-6570)

「中期経営計画 2022」の公表見送りに関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2025年ビジョン「FURUKAWA Power & Passion 150」を具現化していくための第2フェーズを担う「中期経営計画 2022」の公表を見送ることを決議いたしました。

つきましては、新中期経営計画の策定および公表に関する今後の見通しとともに、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 「中期経営計画 2022」の公表見送りとその背景

当社グループは、長期経営計画である2025年ビジョンを3つのフェーズに区分し、あらかじめ第1・第2フェーズにPDCA用のマイルストーン（非開示^{※1}）を設定したうえで、2025年ビジョン達成のための重要なツールとして中期経営計画をローリングし、活用しています。

2020年5月の2019年度本決算時には、新型コロナウイルス禍のために公表を延期した2020年度を初年度とする期間3年の「中期経営計画 2022」に代え、第2フェーズにて取り組むべき経営戦略、重点課題等を明確にすべく「中期経営方針 2022」を策定し、公表しています。

一方、第2フェーズを担う新中期経営計画については、2021年度を初年度とする期間2年の「中期経営計画 2022」を策定し、本年5月の本決算時に公表する準備を進めてまいりました。

しかしながら、新型コロナワクチンの接種による集団免疫獲得が2021年内に見込まれているイスラエル、英国、米国等の一部の国々を除き、依然として新型コロナウイルス感染症の感染拡大が継続しており、新型コロナウイルス禍が収束する時期のめどは立っていません。

現時点において、中長期の事業環境は不確実性が高く想定することが難しいため、中長期の経営指標をコミットメントとして公表することは適切ではないと判断し、第2フェーズを担う「中期経営計画 2022」については公表を見送ることといたしました。

※1 PDCA用のマイルストーン（非開示）：あらかじめ設定したPDCA用の数値（非開示）は、中期経営計画を公表する都度、公表値に置き換えています。

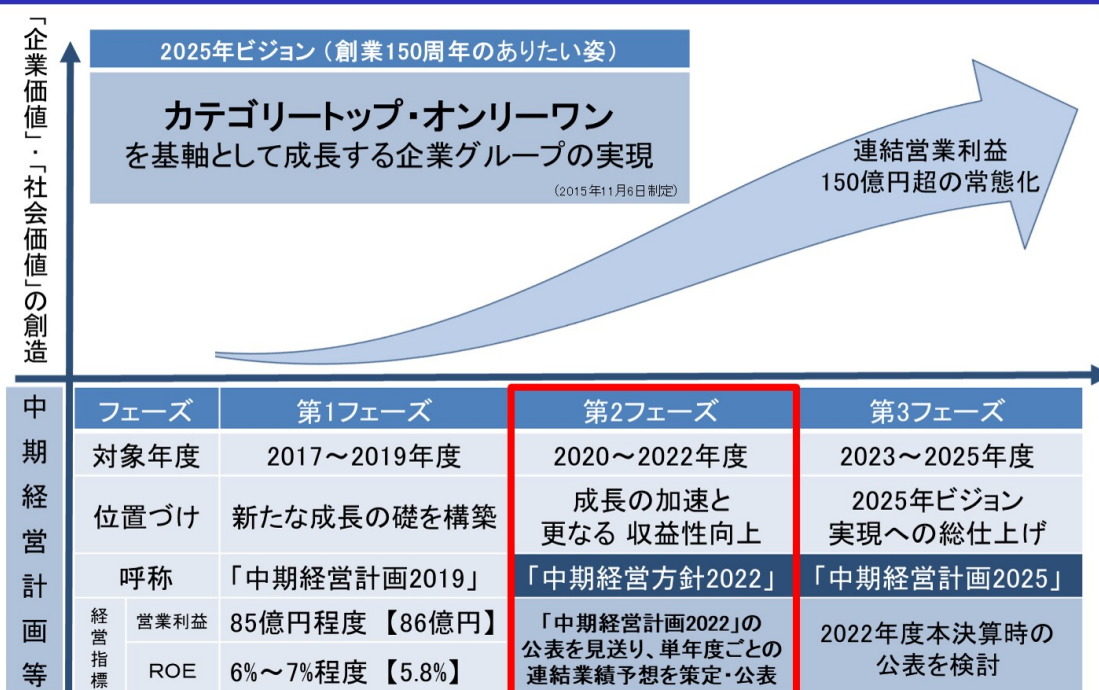
2. 新中期経営計画の策定および公表に関する今後の見通しについて

2025 年は、当社が創業 150 周年を迎える年であり、2025 年ビジョンの最終年度です。2025 年ビジョンの最終フェーズとなる第 3 フェーズを担う新中期経営計画として、2023 年度を初年度とする期間 3 年の「中期経営計画 2025」を策定し、2022 年度の本決算時に公表する検討を継続してまいります。

なお、第 2 フェーズに該当する 2021 年度、2022 年度は、「中期経営方針 2022」にのっとりた事業運営を行うとともに、単年度の連結業績予想を策定し、それぞれ 2020 年度、2021 年度の本決算時に公表します。

したがって、2021 年度、2022 年度は、新型コロナウイルス感染症による価値観やライフスタイル、ビジネスモデル等の変化を慎重に見極め、体質強化（特に、ロックドリル部門における海外マーケティング力の強化・再構築、金属部門における委託製錬事業の抜本的な見直し、不動産事業における古河大阪ビルの将来構想の具現化等の重点課題）を強力に推進し、当社グループ業績の早期回復に注力する期間と位置づけます。

新中期経営計画の策定および公表に関する今後の見通し



※【】内は2019年度実績値

《お問い合わせ》

古河機械金属株式会社 経営企画部 広報・IR課 電話番号:03-3212-6570

以上